



荒島わらび園のレンギョウ

まちづくり広報誌

〈Topics〉

- ・協議会活動紹介
- ・特集「あらかわご馳走プロジェクト」
- ・あらかわ歴史さんぽ
- ・あらかわ伝言板



かわら版発行のお知らせ

協議会設立以来、約5年間にわたり発行してきましたまちづくり広報誌「あらかわ」の定期発行を改め、来月より『(仮称) あらかわら版』をスタートさせます。

あらかわら版では、協議会事業やイベント情報などを中心に、これまでよりもタイムリーな情報提供に努めていきたいと考えておりますので、今後ともご愛読いただきますようお願い申し上げます。

あらかわ地区まちづくり協議会 支援・情報部会一同



28年度みらいファンド助成事業報告会 & 29年度みらいファンド事業募集中♪

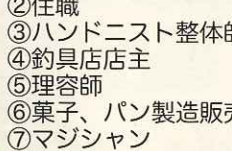
事業報告会では、チャレンジ部門で「食を学ぶ場の提供事業」と「麻を活用した地域活性化研修事業」、一般部門では「銘菓を開発し荒川地区をPRする事業」や「郷土愛を育む事業」、「伝統芸能のブランド化を図る事業」に挑戦した2個人3団体から、充実した取り組みが報告されました。

ファンドを活用した事業としては、これまでに婚活や高齢者の健康づくり事業など、様々な取り組みが行われてきました。その中で荒島わらび園が昨年ようやく開園を迎えました。そこに至るまでには多くの時間と大変な労力、そして様々な困難があったことと思いますが、着実に歩みを進め、自らが描いた大きな夢を実現させたことは、後進にとっても大きな希望となりました。

現在、29年度のみらいファンドの募集を行っています。夢をお持ちの方、まちづくりに対する熱い想いをお持ちの方、ファンドを活用しその想いをカタチにしてみませんか？締め切りは5月2日(火)までです。ご応募お待ちしております♪



11/9 荒川高校協働事業「しごとを知ろう！地域を知ろう！」



【7講座】

- ①大工
- ②住職
- ③ハンドニスト整体師
- ④釣具店店主
- ⑤理容師
- ⑥菓子、パン製造販売
- ⑦マジシャン



恒例となった荒川高校との協働事業「仕事を知ろう！地域を知ろう！」が開催されました。今回から新たに東岸寺住職も加わり、7名の講師陣による特別公開講座です。

今回受講したのは1年生47名。様々な職業を体験していただきましたが、どんなことを感じてくれたのでしょうか？この講座が、自分自身の将来やこの地域のことを考えるきっかけになってくれたのでしょうか？

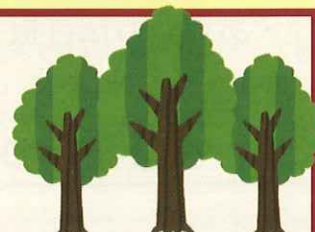
将来、この地域を担っていく皆さんは、これから様々な知識や技術を習得し、社会に出ていくことと思います。その力をぜひこの地域で発揮してほしいものです。

2/26 起業セミナーを開催♪



「NPOえんでは」で代表を務めている山本美幸さんを招き、起業セミナーを開催しました。えんではでの活動を始め、法人化のメリットや立ち上げまでの流れ、苦労話などをお話いただきました。

2/26 高坪山講演会を開催♪



岐阜県高山市で里山整備や自然エネルギーの活用などに取り組まれている山崎さんを招き、講演会を開催。地域通貨を活用した経済活性化策やまちづくり活動に対するアドバイスなどをいただきました。



◆定期開催中！あらしまラベンダーひろば



村上 ohana ネットとの協働事業として、「あらしまラベンダーひろば」を定期開催中です。

子育て中のパパさん・ママさんだけでなく、日中お孫さんの子守りをしているおじいちゃんやおばあちゃんもお気軽にお越しください。

おしゃべりを楽しんだり、子育ての悩みを相談しあったりできますよ～♪

- ・日 時：**毎週水曜日 9：30～11：30**
- ・会 場：遊戯室
- ・その他：数名の見守りサポーターと一緒に遊んだりしてくれます

※平日の 15:00～17:00 は、こどもたちの自由な遊び場として、遊戯室を一般開放しています。こちらは見守りサポーターは常駐していません。

2/26

◆そば製造機実演会&試食会を開催♪



起業セミナー講演会に引き続き、そば製造機の実演会がカフェルームで開催されました。参加者には、高坪山麓で栽培されている「虚空蔵そば」を使った十割そばなどが振舞われました。

3/18

◆小児科医による子育てのお話し会開催♪



村上総合病院の和田有子先生によるお話し会。「こどもの育ちに大切なもの」という講話の後、参加者の心配事にもていねいに答えてくださいました。

〈施設のご予約・お問い合わせ〉
 あらかわ地区まちづくり協議会まで
☎62-3181

新潟県ふるさとづくり大会で『あらかわスイーツ』の取り組みを発表しました！



◀当日は県内各地から約300名が来場。事例発表後、参加者からは、多くの質問や意見が寄せられた。

11月13日(日)、「第30回新潟県ふるさとづくり大会」が総合文化会館で行われ、島根県雲南市職員による基調講演の後、市内5つのまちづくり協議会がそれぞれの取り組みを発表しました。当協議会からは支援・情報部会の横山部会長が『あらかわスイーツ』の取り組みを紹介しました。

広がる活動の輪♪

風かおる丘 ハーブメイツあらかわ

ハーブメイツあらかわは、旧荒島保育園を拠点にハーブを活用した取り組みを行っています。

冬場は、夏に収穫したラベンダー等を使ってハーブチンキやキャンドル、石けんなど、日常生活のなかでも使えるモノづくりを行いました。今後は一般の方も対象にした講習会なども予定しています。

また、新しいメンバーも随時募集中です♪ラベンダーやハーブに興味をお持ちの方、わたしたちと一緒にハーブのある生活を楽しんでみませんか！



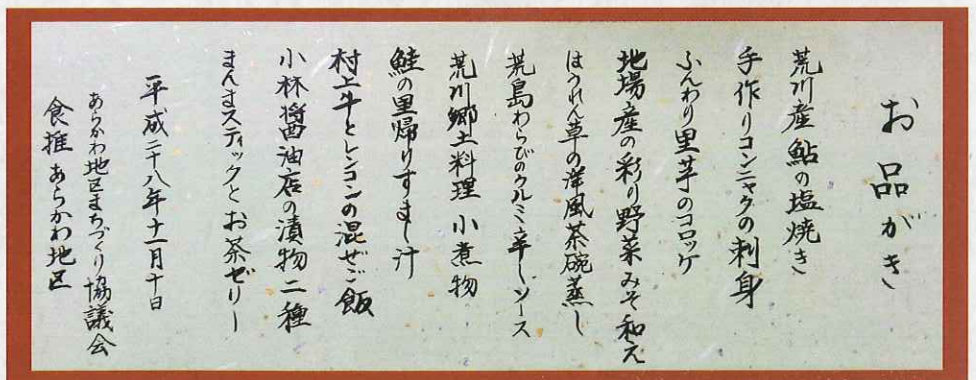
特集

あらかわご馳走 プロジェクト



▲「あらかわ幸御膳」。御膳は旧家に伝わる輪島塗の器をお借りしたもので、それぞれの料理をより一層引き立てている。

「あらかわ幸御膳」 料理紹介



▲プロジェクトメンバーによる手書きのお品書き。地元産材をふんだんに盛り込んだ11品が並んだ。

①「荒川産鮎の塩焼き」

日本一の清流「荒川」で生まれた天然鮎に笹川流れの粗塩を振り、炭火で丁寧に焼き上げました。鮎は、旬である夏場に、友釣りという方法で1匹ずつ丁寧に釣り上げたもの。苔を主食とするため、育った川によって、味や香りが異なると言われています。

②「手作りコンニャクの刺身」

地元産こんにゃく芋から作った手づくりの刺身こんにゃく。添えられた柚子味噌をつけて頂く。

③「ふんわり里芋のコロッケ」

高坪山のふもとで採れた里芋の"孫いも"を使用したコロッケ。"孫いも"は素朴な味わいとトロっとした粘りが特徴で、粘性成分のムチンやガラクトマンナンは胃腸の調子を整え、血管障害を抑制すると言われています。

④「地場産の彩り野菜みそ和え」

地元で採れた野菜をシンプルに味噌で和えた一品。

⑤「ほろれん草の洋風茶碗蒸し」

牛乳とチーズを使った濃厚な味わいと滑らかな食感の洋風茶碗蒸し。

荒川地区では古くから乳牛の生産が行われています。

完成！あらかわ幸御膳。金屋大雄寺でお披露目！

あらかわご馳走プロジェクトは、まちづくり協議会（支援情報部会）と食生活改善推進委員協議会荒川支部の協働事業として、平成28年度にスタートしました。荒川地区の素材を盛り込んだ料理を創作し、それらを活用して荒川地区をPRしていこうというものです。

度重なる試作や研修の末によやく完成させ、11月10日、金屋の大雄寺を会場に開催された「いなご馳走まつり」において、35名のお客様におもてなしました。座禅体験オプション付きで提供されたコースは大好評で、「また来たい！」とのうれしい声を多数いただきました。それでは、「あらかわ幸御膳」の全貌をご覧ください！



▲35名分の御膳がズラリ。
黒い御膳は明治時代、赤い御膳は江戸時代の貴重なもの。



▲イベント当日の配膳の様子。



▲参加者に大好評だった座禅体験。



◀会場では、ラベンダー関連商品や地域物産の販売の他、あらかわご馳走に使用した食材の紹介ブースも設置。

⑥「荒島わらびのクルミ辛ソース」

昨年オープンした荒島わらび園のわらびの塩漬けを使用。くるみを用いたソースが絶妙。荒島のわらび園は他地区のわらび園よりも早く開園します。山頂から日本海までを一望できる抜群のロケーションが魅力です！

⑦「荒川郷土料理 小煮物」

村上市ではお祭りや正月などに「大海」という料理を振舞う地区が多いが、荒川地区では家庭によって味付けや具材が異なるものの、郷土料理である「こにもの」を振舞う。

⑧「鱈の里帰りすまし汁」

荒川の河口で採れた新鮮な鮭をつみれにし、大和芋で包んだものに、高坪山のふもとで採れた「虚空蔵そば」を荒川の流れに見たてて添えたお吸い物。村上といえば三面川の鮭が有名ですが、近年荒川ではサケ釣りが盛んで、秋には全国各地から大勢の釣り客が訪れています。たくさんのお客さんが荒川に帰ってくるようにと願いを込めて作られた創作料理です。

⑨「村上牛とレンコンの混ぜご飯」

岩船産コシヒカリの稲わらを与えて育てた日本屈指のブランド和牛、『村上牛』を贅沢に使用した混ぜご飯。お米は、清流荒川の水と肥沃な大地に育まれた、地元の新米コシヒカリを使用しました。

⑩「小林醤油店の漬物三種」

大津の小林醤油店に特別に漬けていただいた、地元野菜の塩麴漬けとみそ漬け。なお、あらかわ幸御膳で使用した醤油と味噌はすべて小林醤油店のものを使用。

⑪「まんまスティックとお茶ゼリー」

岩船産コシヒカリの新米で作った「まんまスティック」に季節の果物と村上茶のゼリーを添え、地元で採取した希少なアカシアの蜂蜜で仕上げたひと品。

〈御礼〉

今回のこの取り組みは、食生活改善推進委員協議会荒川支部（食推）を始め、大雄寺住職や多くの方々のご協力をいただき実現したものです。特に、食推の皆さんには、メニューの考案から試作、当日の調理や配膳等多くのご尽力をいただきました。心よりお礼申し上げます。

今後は完成した「あらかわご馳走」を活用し、清流荒川と肥沃な大地に育まれた多くの食材とともに、荒川地区の魅力をしっかりとPRしていきたいと考えています。

あらかわ歴史さんぽ

坂町駅・駅前篇 第2部

写真で見る坂町駅と機関区の歴史

今号のあらかわ歴史さんぽでは、前号に引き続き「坂町駅・駅前編（第2部）」として、坂町駅や機関区がもっとも華やいでいた時代を中心に写真と共にご紹介します。

※掲載した写真の多くは、『坂町機関区開設20周年記念写真帖』、『駅本屋改築竣工記念』から転載しています



ヒトとモノが集まった坂町駅



売店と蕎麦屋が営業するホームには小包を運ぶターレットが走り、貨物ヤードでは昼夜を問わず貨物車の仕分・編成が行われていた。多い時には400名超が鉄道関係に就業し、坂町駅にヒトやモノの流れが顕著に集中したことから、駅を中心とした「鉄道のまち」としての賑わいが生まれたのである。機関車よりしく坂町駅・坂町機関区という存在に牽引された面は大きいといえる。

黒いスズメ

「家を壊す時、天井からはススが大量に落ちてきた」「スズメは黒いものだと思っていた」
このように語ったのは高橋和子さん。鉄道職員との関係が深かった食料品店「高勇」の娘である。

蒸気機関車が走る時代は石炭や煤煙による汚れは不可避であったが、機関区には写真にあるように洗濯室や共同浴場が設けられており、職員達はそれらを利用して汚れを落とすことができた。

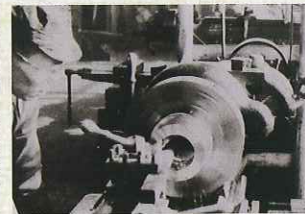
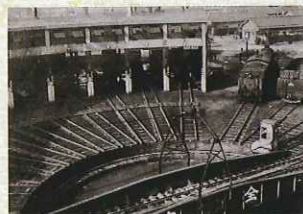


坂町機関区を支えた良質な水



「坂町の水は良かった」「水がピカイチだった」

上野康二さん、富樫宇栄一さんなど坂町機関区OB達は口を揃えて評する。蒸気機関車はボイラーの水（缶水）を沸かして動力とするが、その過程で水に含まれる不純物が濃縮滞留して錆などの原因となるため、清缶剤を投与してpHを調整するなどの化学処理を要する。缶水に関しては化学処理担当者のテクニックにも左右されるが、飲むことさえできたとされる坂町機関区の水は、そもそも不純物が少なかったのだろう。その原水は機関区北方の松山踏切付近から汲み上げられていたようで、恐らくは荒川の伏流水と思われる。



扇形車庫と技術者たち

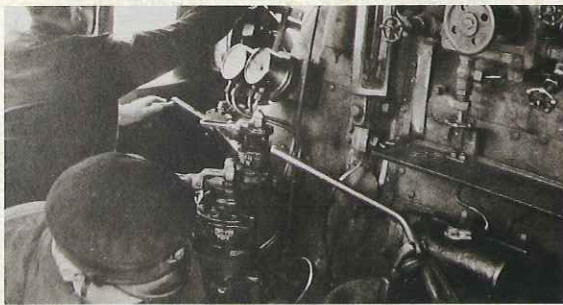
様々な検査や修繕なしに蒸気機関車の運行はできない。機関区の主たる役割は機関車の管理であり、扇形車庫に憩う機関車の周囲には慌ただしく動く技術者たちの姿があった。それは車庫というよりは整備工場やピットを想像した方が適当であろう代物である。蒸気機関車はアナログであるがゆえに、その整備にあたっては職人的技巧が要求され、かつ活かされるものでもあった。多くの裏方作業が運行を支えているのは、今日も変わらない。





駅舎、駅前と機関区の変化

現在の駅舎（上段左）は1963年（昭和38）に竣工したもので、その翌年に東京五輪大会が開かれたと言えば時代背景が掴みやすいだろうか。それまでの駅舎（下段左）と比べて規模が大きく、近代化されたのが伺える。駅前通りの様子も、時期は未詳だが新駅舎の時代（上段中）と旧駅舎の時代（下段中）を比較すると、単純に舗装されただけでなく建物の更新も見受けられる。かつて駅前には映画館やパチンコ屋、芝居小屋といった娯楽施設、診療所などもあったという。機関区敷地内に関しては、電化後（上段右）とそれ以前（下段右）では、転車台付近の線路の敷かれ方が違ったり、扇形車庫の煙突や給炭台が無くなっているなどの変化がみられる。電化後は地物が増え、架線柱が多いせいか窮屈な印象を受ける。



育まれた絆

蒸気機関車の運転は機関士と機関助手がペアを組んで行う。互いに信用しあい、互いの役目を全うする必要があり、ここがうまく噛み合わないと運行トラブルに結び付きうる。交番上1カ月以上ペアを組むのが通例で、最終日には機関士が機関助手を自宅に招いて一杯やる、といった風習があったという。機関士と機関助手は同僚でもあり、また師弟関係でもあったため、強い絆が育まれた。石炭を投入する量やその間隔、短い停車時間での簡易点検や次の区間への備えといった動作は、経験豊富な機関士と機関助手の結束なくしては成しえない業であった。



坂町駅正面左手の広場には「D51型式蒸気機関車動輪」が展示されている。この動輪は機関区構内に記念として残されていたが、1999年の機関区派出所の閉所式の折にJR東日本新潟支社長から当時の荒川町に寄贈の打診があった。それから数年後、機関区OBの上野さんらを仲立ちとして手続きが進められ、正式に寄贈されることとなった。

保存された動輪と機関車



荒川中学校脇の建屋には、かなり良好な状態でD51型式機関車が保存されている。とは言い、その走行距離は地球約46周分の距離1,833,790kmにも及ぶ。この機関車は当時の国鉄から荒川町へ100年の無償貸与され、公道に仮設線路を引いて移動させたという。例年、荒川地区文化祭の日一般公開されており、機関区OB有志が点検などを行っている。



機関区の不動明王

火の神様として、安全祈願のためとして、機関区入口には不動明王が祀られていた。また、区長室の側にも小さな祠があったという。これは菅谷から分祀されたらしく、菅谷へ安全祈願のお参りや、住職を招いてのお不動様祭りといった行事があったとの事である。こうしたところにも、安全への意識がいかに強かったかが伺える。扇形車庫など機関区の建物はほとんど取り壊されてしまったが、この不動明王像は現存である。



◀▲略帽・腕章と坂町機関区開設記念の盃（上野康二さん所有）

あらかわみらいファンド助成対象事業

荒島わらび園 オープン



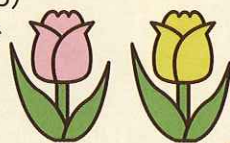
- ◆開園 5月頃(予定)
- ◆営業 毎週水曜日 10:30～12:00
- ◆料金 おひとり様 1,500円
- ◆定員 1日50名様まで
- ◆その他 駐車場、トイレ有
- ◆お問合せ 荒島わらび会
小島(携帯) 090-3507-8502
- ◆アクセス 日本海東北自動車荒川胎内ICから車で約15分。なお、国道113号からの入口、花立集落入口、林道の分岐点、わらび園駐車場等に案内看板を設置予定です。
- ◆その他 受付で3～4キロほどのワラビが入る袋をお渡ししますので、袋に入る範囲内で収穫をお楽しみください。

わらび園からの見晴らしは最高！
 眼下には日本一の清流荒川と
 田園風景が広がり、
 日本海までが一望できます。

あらかわ伝言板

「チューリップの花摘み体験」

日時：4月20日(木) 10:00～
 場所：胎内市桃崎浜地内
 内容：色とりどりのチューリップをご覧いただき、
 それから摘み取り体験を行います。
 定員：30名
 お問い合わせは、
 JAにいがた岩船荒川支店 (☎62-2906)
 南部営農センター (☎62-0055) まで



編集後記

約5年間にわたる広報誌「あらかわ」の定期発行が今号で最後となりました。これまで取材を通し、荒川地区の歴史や自然、食や人々の絆に触れることができたのは私自身にとっても貴重な経験であり、とても幸運なことだったと実感しています。

今後、少子高齢化はますます加速し、様々な地域課題が浮き彫りになってくることなのでしょう。今できること、今しかできないことが必ずあるはず！ひとりではできないことでも、みんなで協力すればできることもあるはず！まちづくりは決して他人事ではありません！ひとりひとりが地域課題を自分たちのこととして捉え、一丸となって考え、取り組んでいくことが大切ではないでしょうか。

まちづくりはこれからが本番です。興味をお持ちになった活動だけでも結構です。協議会活動への参加をよろしく願います。(たじ)

あらかわ地区まちづくり協議会

お問い合わせ TEL 0254-62-3181
 URL : <http://www.love-arakawa.bz-service.net/>